

元西光寺跡

西光寺には「鬼人成仏」と呼ばれる親鸞聖人にまつわる伝説が伝えられている。その伝説の地が、この元西光寺跡である。

そこは那珂市豊喰の天満神社から、畦道を東に200メートルほど行った所だ。現在、ここには樹齢300年を超えると伝えられる大きな藤棚があり、その傍らに祠のような小さなお堂が遺され、地元では薬師堂と呼ばれている。

なぜ浄土真宗の寺院跡にもかかわらず薬師堂なのかは、西光寺の開基である鳥喰の唯圓とよぼみ ゆいえんの持仏が薬師如来（西光寺蔵）であったことからであろう。

唯圓は大名の家に生まれたが、溺愛していた一人子を八歳にして亡くし、その深い嘆きから城を弟に譲り、持仏であった薬師如来を携え修行者と身を変じ、この地にたどり着き、空き家で一夜を過ごした。その夜、枕元に薬師如来が現れ、福田の名僧の所へ参詣するようにとのお告げにより、親鸞聖人からお念仏の教えを聞き、弟子となり、この地に道場を開いたのが西光寺の始まりである。

今回、我々は西光寺ご住職や豊喰区長の山田さん、木村さんなど「豊喰史跡（薬師の寺院跡）保存委員会」の皆様以案内頂き、詳しくお話を伺うことが出来た。

昔、この辺りは貧しい土地で鳥が喰む程の作物しか採れず、豊かに食べられるようにと、地名を鳥喰から豊喰に改めたという。

ここには50年程前まで、お堂や参道もあり、傍らに滾々と水の湧き出る小さな池もあった。眼病になると、その水で目を洗えば立ち所に治ったという。お堂は火事で焼けてしまい、1985年に現在のものが建てられた。地元では唯圓の命日が8日と伝えられ、今でも高齢の方が毎月参詣し、そして、地域の人びとの手で大切に維持管理されている。（唯圓の命日は3月12日。八日講の名残か）

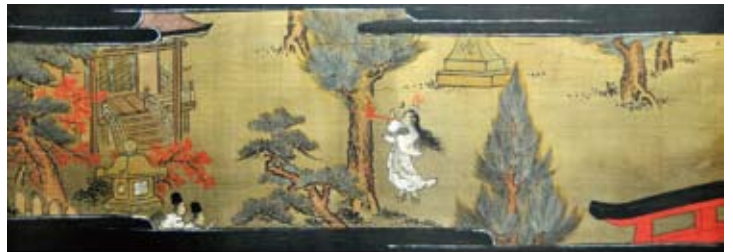
また、後世にこの地の伝承を伝え、大切にしてもらいたいと、今年から地域の人びとが集い、お堂を参詣し、藤棚のお花見会を開催するというのだ。



元西光寺跡

「鬼人成仏」伝説

昔、おためという美しい百姓の娘がいた。おためは豪族の家で奉公していた。その家の跡継ぎの六郎といつしか恋仲となり、夫婦となる約束をしていた。しかし、六郎は親のすすめで富豪の家の娘と結婚し、おためは家から追い出された。おための愛情は激しい憎悪に転じる」と毎夜、恐ろしい形相で祈りつづけた。すると頭から角が生え、身も心も鬼になってしまった。おための親は唯圓に助けを求めた。唯圓は親鸞聖人にご教化を願った。聖人は鳥喰へ赴き、唯圓の道場で48日の間、弥陀の本願を説かれた。縁の下でお説教を聞いていたおためは、みるみるうなだれ、涙を流して念仏申し、ついに角が取れ、もとの美しい姿に戻ったという。



西光寺絵伝（西光寺蔵）「鬼神成仏伝説」



開基の持仏 薬師如来



角が取れた“おため”の一段



おためから抜け落ちた角